

平成30年度アドバイザー派遣事業 実施レポート

中部小学校教育研究会健康教育部 夏季研修会

研修テーマ 「生きる力」を育てる健康教育
学校における大規模災害対応
～鳥取県中部地震の体験をとおして考える、
必要な支援やネットワークのあり方～

- 1 日 時 平成30年8月9日（木） 9：00～16：30
- 2 会 場 倉吉市立河北小学校
- 3 講 師 姫路市立高浜小学校 主幹教諭（養護教諭） 三村 理加 先生
- 4 研修内容

兵庫県教育委員会 震災・学校支援チーム（EARTH）に所属され、養護教諭の専門性を生かしながら心のケア班チーフとして活躍しておられる三村理加先生を講師として招聘し上記研修テーマにそって研修を行った。

「学校における大規模災害対応」と題して①学校の防災体制の整備、②環境衛生、③心のケア、④防災教育 についての講義を受け、講義のあとには各グループの話し合いに入っただき指導助言をいただいた。

講義を聞き、聞いた内容をもとに、鳥取県中部地震で体験したことをどのような形でまとめ、伝えていくと、今後に生かすことができるものとなるのか指針を得ることができた。

～ 講義内容 ～

【今までの災害の教訓から】

震災の教訓を重ねながら学校教育に生かしていくことが大切である。語り継ぐということが防災教育となる。学校における大規模災害対応としての防災教育は、教科横断的な視点で関連づけて学習を進めていくこと、「学校保健年間計画」「保健室経営計画」に位置付けることが風化させないことへの第一歩になる。

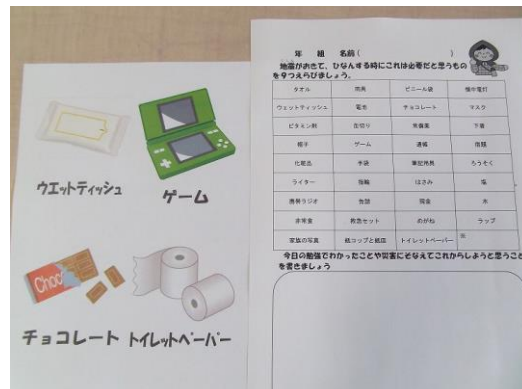
また、災害にあうと誰もが心に傷を負う。現れる反応も一人一人の子どもや置かれた状況によって異なる。子どもたち自身でセルフケアできる力を身に付けたり、子どもたちのサインを丁寧にキャッ



三村先生の講演

チしたりする等、教職員だけでなくSCや学校医とも連携をしてチーム体制で取り組むことが重要である。

三村先生の講義を通して、災害にあうということは誰にでも起こることなので、平時からの備えと災害の教訓を日常活動に活かすということが大切になると学び、自分たちの体験を語り継いでいく必要性を感じた。



避難持ち出し袋 カード演習資料

～各グループでの作業から～

4つのグループに分かれ、中部地震から学んだことをどのように活かしたらよいか話し合いを行った。

【避難・持ち出しグループ】

- ・アンケート結果より、救急薬品一覧表と持ち出しグッズの一覧表、点検表の作成
- ・引き渡しカードの内容検討
- ・関係機関の一覧表の作成
- ・混乱しやすい避難時に行える支援の工夫
- ・欠席遅刻児童の一覧表の工夫
- ・引き渡し訓練時の様子について情報交換

【心のケア】

- ・調査票や配布物の作成
- ・経時的な健康アンケートの検討
- ・家庭訪問時のチェックリストの検討
- ・対応等のリストアップの作成
- ・中学校への引継ぎ資料の作成
- ・平常時からのストレスマネジメントの授業づくり、指導案検討

【環境衛生】

- ・トイレ、飲料水など校内施設や環境の管理について検討
- ・感染症やその他の病気、けがの予防について

【防災教育グループ】

- ・特別活動や体重測定時の保健指導、個別指導の内容の検討
- ・掲示物や委員会活動を活用した防災教育の内容の検討



グループワーク (1)



グループワーク (2)